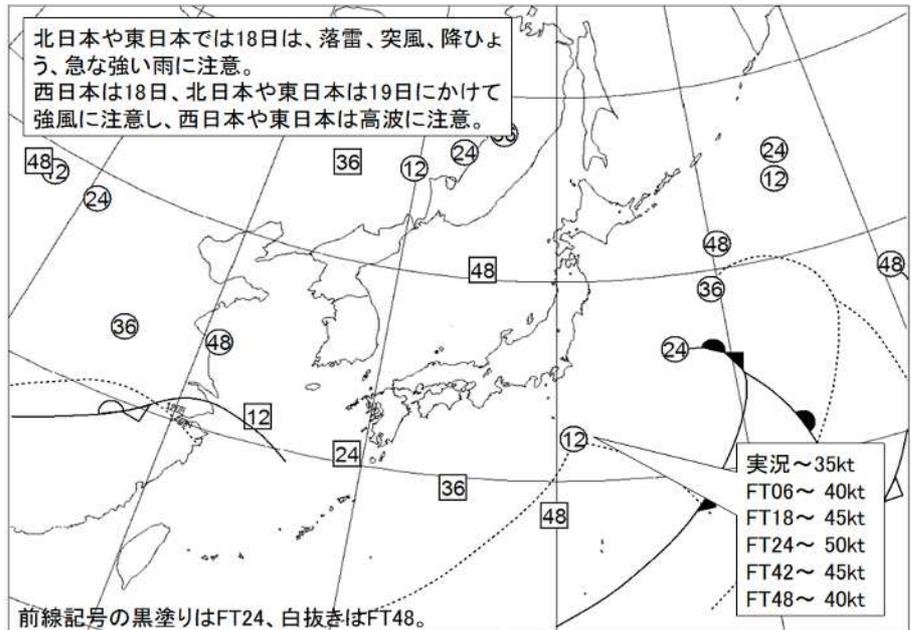


1. 実況上の着目点

- ① 西日本の 500hPa5640m 付近に-18℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。対応して日本の南に前線を伴った低気圧があって東北東進。低気圧や前線に向かって 850hPa  $\theta$  e330K 以上の下層暖湿気 (09 時の南大東島の高層観測では 850hPa  $\theta$  e342K を観測) が流入、対流雲が発達して活発に発雷。
- ② 日本海北部の 500hPa 5520m 付近に寒気を伴ったトラフがあって停滞。09 時の札幌の高層観測では 500hPa の気温 -23.1℃を観測。



主要じょう乱解説図

- ③ 北日本～西日本の広い範囲で黄砂が観測されており、視程 10km 未満となっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1 項①のトラフは深まりながら 19 日朝にかけて日本の東に進み、その後、寒冷渦となって動きが遅くなり、20 日にかけて日本の東を北東に進む。対応して 1 項①の低気圧は発達しながら日本の南を東北東進、18 日夜には伊豆諸島の南を進み、20 日にかけて発達しながら日本の東を北東に進む。低気圧や前線の影響で気圧の傾きが大きくなるため、北日本～西日本では風が強く吹いて、うねりを伴って波が高くなる所がある。西日本は 18 日、北日本や東日本は 19 日にかけて、強風に注意し、北日本や東日本はうねりを伴った高波にも注意。なお、20 日は、低気圧は寒冷渦直下となって日本の東で動きが遅くなり、北日本中心に気圧の傾きが大きい状態が続くため海上を中心に風が強く吹き、また北日本～東日本太平洋側では低気圧からのうねりが入り、波が高い状態が続くので留意。
- ② 北海道地方、関東甲信地方や東海地方では 18 日は、1 項①や②のトラフに伴う上空寒気、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。また、伊豆諸島でも、低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入して大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 北日本～西日本では引き続き 19 日にかけて、黄砂が飛来する可能性があり、視程が 5km 未満になった場合には交通への影響が発生するおそれがあるので注意。
- ④ 500hPa5640m 付近のトラフが 19 日朝にモンゴル付近に進み、20 日朝にかけて華北に進む。対応して、19 日夜までに華北で低気圧が発生、20 日朝にかけて黄海に進む。また、500hPa5760m 付近の流れに対応して、19 日夜までに華中で前線 (850hPa15℃前後) が発生、20 日にかけて東シナ海にのび出す。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場は GSM 基本、量予想や降水分布は MSM や LFM も参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18 時からの 24 時間) : 高い所 (100mm 以上) はない。②波浪(明日まで) : 伊豆諸島 4、北海道・東海 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。